

熱中症情報

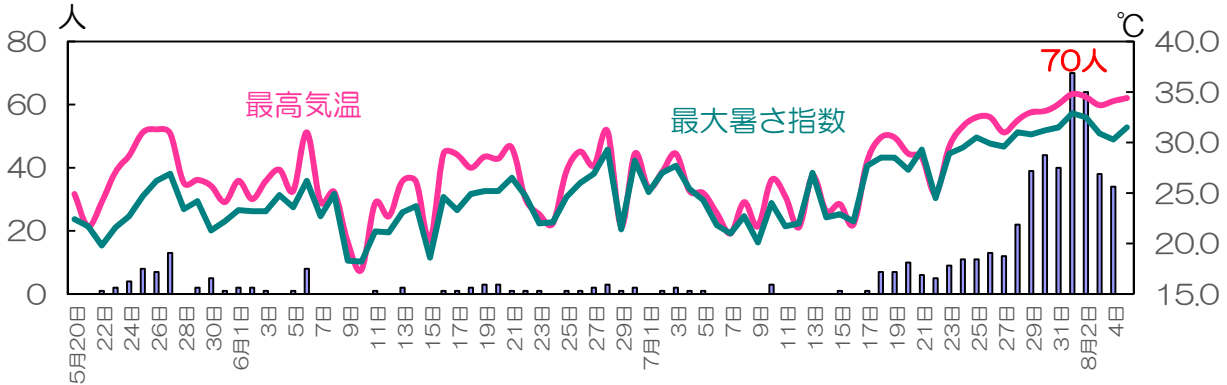
<搬送数>

令和元年5月1日～8月4日までの搬送数（消防局データを使用）は、計547人（5月55人、6月40人、7月246人、8月206人）でした。5月25～27日は真夏日（最高気温30.9～31.3℃）となり、搬送数も7～13人と多かったですが、6月の真夏日は2日間（6月6・28日）で、搬送数は5月よりも少なかったです。

梅雨明け後の猛暑続きで、7月29日以降は、1日の搬送数が30人以上と急増しています。

熱中症は、気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

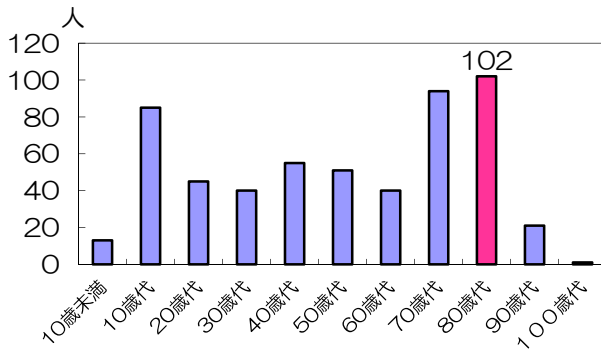
7月下旬から急に気温が上がり、体が暑さに慣れていないために熱中症のリスクが高まっています。こまめな水分補給とエアコン・扇風機を上手に使用して、暑さを避ける工夫をしながら、身を守りましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

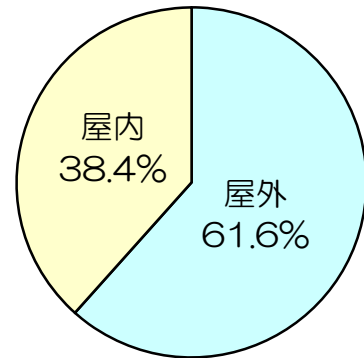
<年齢別>

年齢別では、80歳代が102人と、最も多く、18.6%でした。



<発生場所>

屋外61.6%、屋内38.4%で、屋外の発生が多いですが、室内での発生割合が増加しました。



<重症度>

軽症57.6%、中等症37.3%、重症4.4%、重篤0.7%でした。中等症、重症、重篤の割合が増加しました。重症・重篤の内、高齢者（65歳以上）の割合は75%を占め、その中で、室内の発生が57.1%でした。高齢になると室内で重症化する傾向が伺えます。

